

『永遠に続く国』(ダニエル書 2章 31-49節)④ 2021.9.26.

<はじめに> ダニエル書 2章は、バビロンのネブカドネツアル王が見た夢を中心に進みます。王からの「夢とその意味を示せ」という無理難題に、ダニエルは挑みます。人は秘密を知ることが好きです。しかし、秘密を知らされた者には求められることがあることも見逃してはなりません。

I 物語の確認

①王が見た夢(31-35)

王がまず見たのは、何でしたか。それはどのようなものでしたか(できるだけ詳しく)。王が見ていると、何かが起こりました。どんなことですか。何か特徴的なことはありますか。王の夢は巨像と一つの石の物語です。その結末はそれぞれどうになりましたか。

②巨像が示すもの(36-43)

像は幾つの部分に分かれ、各部は何を指していますか。各々に何か特徴がありますか。像の上から下への流れは何を示しているでしょう。

「私たち」(36)とは誰のことでしょう。王に国・権威・力・栄誉を与えるのは誰ですか(37-38)

③天の神から王へ(44-49)

一つの石は何を指し、どんな特徴や役割がありますか。それは誰が起こされますか。誰がこの夢を王に見せたのですか。「これから起こること」(45)を示された意図は何でしょう。夢と解き明かしを聞いて、王はダニエルに何をしましたか。天の神には何かしましたか。

II この世の国と支配者

①覇権争いの歴史

巨像はこの世に現れる帝国です。帝国は時代とともに入れ替わります。バビロニアの後、メディア・ペルシャ、ギリシャ、ローマが次々と興亡し、やがて分裂して諸国が興ります。それらが一つにまとまることなく、互いに覇権争いを続けます。これが人の世の歴史です。

②この世の国が目指すもの

この覇権争いは生けるものすべてを巻き込み(38)、支配者に就くと思いのままに生殺与奪を行います(5-6)。今もなお集散離合を繰り返して、自己の領域拡大を目指し、世界全体をも支配しようと目論みます。国々に限らず、人の活動のあらゆるところに見られます。

③この世の国の限界

どんなに強大な国でも、異質なものや脆さを抱え、一つにまとまらず、また永続しません。偉大な支配者でも、どうすることもできないことがあります。どんなことでしょう。帝国も王も実はコントロールされています。どなたがそうされているのか、その方が見えてますか。

III 永遠に続く国

①人手によらない国(44-45)

国々と諸王に立てた天の神が、一つの国を起こされます。これは諸国とは異なり、「人手によらず」(34,45)は神ご自身が治められる国を示します。神の国は、地上の諸国を凌駕・駆逐し(35⇒詩 1:4, 103:15-16)、最後には全地に満ち、永遠に天地万物を治めます。

②神の国とは

主イエスは神の国について多く語っておられます。「わたしの国はこの世のものではありません」(ヨハネ 18:36)「神の国は、目で見える形で来るものではありません。…見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです」(ルカ 17:20-21)。神の国とはどんな国ですか。

③地上の王の下で、神の前に生きる

神ならぬ者が権力をふるう今の状況は限定的です。すでに神の国は信じる者の心中に立ち上げられ、やがて必ず神とともに全てを治めます。この秘密を神から教えらるる者に、神は相応しい対応を求めます。メッセージを聞いただけでは欺く者です(ヤコブ 1:22)。

<おわりに> 異国・異教の捕囚の地でも、神は生きておられ、祈りを聞き、働き続け、ご自身の計画を着実に進展されています。主イエスの十字架と復活はその証しであり、希望です。この方を信じ待ち望む者には、慰め、励まし、希望、救い、神の力です(Iコリント 1:18)。(H.M.)